

土砂災害に対する

防災訓練を実施しました

災害に備えて

9月5日(日)、御来屋地区 防災訓練を行いました。
で土砂災害の発生を想定した防 住民の避難訓練や避難所設置



▲災害対策本部の様子

訓練、炊き出し訓練、関係機関との連絡訓練などの実践訓練を行いました。

訓練には、御来屋地区の住民・自主防災組織のみなさんをはじめ、大山町消防団や八橋警察署、大山消防署、赤十字奉仕団、大山町建設業協議会などから約400人が参加しました。

今回の訓練は、豪雨により、大雨洪水警報の発令・土砂災害警戒情報が発表され、土砂災害の発生・河川の氾濫が予想されることから、御来屋地区に避難勧告が発令されたことを想定して行われたものです。これを受け、町は、災害対策本部を設置し、災害状況の把握と各機関に出勤の要請、御来屋地区への避難勧告の発令を決定しました。

御来屋地区の住民のみなさんは、区長さん・自主防災組織の代表者の方の指示の下にあらじめ決められた避難所に避難し

ました。参加したみなさんは本番さながらに真剣な表情で訓練に取り組んでいました。

その他では、赤十字奉仕団による炊き出し訓練、大山町建設業協議会により土嚢づくり・設置などの訓練も合わせて行いました。

訓練終了後、区長さん・自主防災組織の代表者の方を対象とした研修会を行いました。町長のあいさつと大山消防署長による訓練の講評ののち、土砂災害のついでDVD鑑賞および意



▶大山町建設業協議会による土嚢設置の様子

見交換を行いました。

大きな自然災害が発生した場合、すぐに助けが来るとは限りません。自分や家族を守ることができるのは、自分自身や地域のみなさん、自主防災組織です。

そのため、日頃から防災に対する理解と防災意識を持つことが大切です。避難場所や連絡方法などについて家族で話し合ったり、地域の人たちとコミュニケーションをとったりしておくことが、いざと言うときの防災力強化につながります。

自分や家庭、地域の方々の生命・財産を守るために自主防災組織を設立し、今一度災害への備えを見直しましょう。



▲漁村センターでの避難の様子